

## 第25回 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成23年3月7日（月）19時から20時45分
- 2 開催場所 ふじみ衛生組合大会議室
- 3 委員出欠 出席13人
  - ・出席委員 大江宏（会長）、河本美代子、草苺正行、小林隆志、小林義明、佐藤壽、田中茂利、寺嶋均（副会長）、時津直子、中澄子、藤生よし子、増田雅則、松井和夫
- 4 出席者
  - ふじみ衛生組合 長友貴樹副管理者
  - 事務局 浜三昭、内藤和男、岡本正昭、荻原正樹、大木和彦、奥山尚、飯泉研、田中實、深井恭、飯高秀男、和田良英、高畑智一総務主幹
  - J F Eエンジニアリング株式会社
  - パシフィックコンサルタンツ株式会社
- 5 傍聴者 0人

### 【議事次第】

- 1 開会
- 2 委嘱式
- 3 管理者あいさつ
- 4 副管理者あいさつ
- 5 委員自己紹介
- 6 要綱の確認
- 7 会長選出
- 8 会長あいさつ
- 9 副会長選出
- 10 副会長あいさつ
- 11 運営規程の確認
- 12 報告
  - （1）ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会中間報告（第2期）について
  - （2）ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について
- 13 議題
  - 今後のスケジュール及び環境学習機能に係る検討の進め方について
- 14 確認事項
  - 次回の開催日程について
- 15 閉会

## 【配布資料】

- 【資料1】 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会設置要綱
- 【資料2】 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会委員名簿（50音順）
- 【資料3】 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会の運営に関する規程
- 【資料4】 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会報告書（平成22年11月）
- 【資料5】 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会の今後のスケジュール（案）
- 【参考資料1】 第21回市民検討会資料
- 【参考資料2】 第23回市民検討会資料

## 【会議録】

午後7時 開会

### 1 開会

【事務局あいさつ】

### 2 委嘱式

【委嘱状机上配付】

### 3 管理者あいさつ

管理者急用のため欠席

### 4 副管理者あいさつ

長友副管理者： 皆様、こんばんは。ふじみ衛生組合副管理者、調布市長の長友でございます。本日は悪天候の中、またご多忙の折、ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。心から御礼を申し上げる次第でございます。

ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会でございますが、皆様方には3期目の委員をお願いいたしますが、皆様、引き続きということですので、委嘱状の交付につきましては簡略な措置にさせていただきました。今後とも、私ども調布と三鷹のこの大事業に関して、変らずご卓見を拝聴できればと思っております。どうか引き続きよろしくお願い申し上げます。

私が今さら申し上げるまでもなく、この市民検討会でございますが、平成18年11月に第1回目を開催させていただいてから25回目になるわけでございます。3期目の皆様方には、2期に引き続きご議論をいただくということで、どの委員の皆様方もこれまでの経緯をよくご存じでございます。この任期でございますが、竣工までということにさせていただいて

いるわけでございます。どうか今後とも経過を逐一、皆様方で検証、把握いただきながら、完成まで無事に見届けていただければという思いでございます。よろしくお願い申し上げます。

そして、これまで2年間の検討結果でございますけれども、前期の大江会長、また寺嶋副会長のほうから、1月19日に報告書を受け取らせていただきました。その報告書の中で、例えばということで申し上げます、白煙防止につきましての装置、これを用いないというようなことも触れていただいております、私どもはそのように皆様方の英知を結集していただいたご提案については最大限尊重させていただくという方針のもとに、報告書の中身をしっかりと把握させていただいているところでございます。

昨年の8月から始まりました工事についてでございますけれども、山留めが11月に完成いたしました。地盤の崩壊とか土砂の流出を防ぐために必要な工事だったわけでございますが、11月にこれを終了いたしまして、12月から本格的な工事を開始させていただいているということでございます。そして、これが現在、建物部分の掘削工事が最終段階でございますけれども、この後に地盤の改良を行って、地下の部分から工事を開始し、5月には地上部分の工事を始めると、そのようなスケジュールになっております。煙突の部分に関しましては掘削工事が終了いたしまして、基礎工事を現在行っており、予定では4月の中旬ぐらいから地上部について工事が開始できればという目算でやっております。計画ではございますので、いろいろな不測の事態の発生は、これは最後まで気を許すことができませんが、当面そのようなスケジュールで進んでいくということを私からは申し上げさせていただきたいと思っております。

三鷹と調布にとりまして、本当に市の環境問題の運命を決するような大工事でございます。環境と安全には最大限の配慮を行うということで、市民の皆様にもお約束をしております。先ほども申し上げましたように、皆様方にはまだ継続的にご負担をおかけし、恐縮ではございますが、最後の最後までというところで、私どもも全力を尽くして今後ともその任に当たることは当然でございますが、来年の竣工を楽しみに、鋭意また準備を進めてまいります。今後ともひとつよろしくお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

## 5 委員自己紹介

【各委員自己紹介、事務局自己紹介】

## 6 要綱の確認

【事務局から「ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会設置要綱」の説明、各委員了承】

## 7 会長選出

【大江委員を推薦の声があり、各委員了承】

## 8 会長あいさつ

【大江会長あいさつ】

## 9 副会長選出

【大江会長が寺嶋委員を指名、各委員了承】

## 10 副会長あいさつ

【寺嶋副会長あいさつ】

## 11 運営規程の確認

【事務局が以下のとおり説明、各委員了承】

- ・検討会は原則公開とする。
- ・検討会は、傍聴できる。傍聴人数に制限は原則しないが、会場の都合で制限する場合がある。
- ・会議録は要点記録とし公開する。なお、委員の名前は、ABCとする。
- ・検討会資料は、原則公開とする。ただし、非公開とする場合は、会長が発議し、検討会で検討する。

## 12 報告

### (1) ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会報告書について

【事務局説明】

会 長 : これは2期のまとめであり、皆さまご存知のところかと思う。特に白煙防止を付けないということについては、武蔵野市ではふじみ衛生組合のこういった先進的な動きを踏まえて、白煙防止を止める実験まで行って、今、結論的には白煙防止は付けないということで動いているので、1つの手本になったのではないかと考えている。

報告書について何か意見はあるか。

A 委員 : 建物の色は、いつごろ決まるのか。

事務局 : 建物の色は、今年中ぐらいいまでは決めなければならないので、事前に市民検討会にご報告をさせていただき、ご意見があれば伺いたいと考えている。

### (2) ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について

【事務局説明】

会 長 : 何か質問等はあるか。

B 委員 : 広報みたかの記事に、新年度の三鷹市の事業予算に、新ごみ処理施設の整備という項目で6億1,780万円の予算が計上されているが、これはどういう内容に使われているのか。調布市にもこれと同様の予算が計上されているのか。

事務局 : 新年度の三鷹市の事業予算に新ごみ処理施設の整備という項目で6億円というような話が出たが、これはふじみ衛生組合に対する分担金である。ふじみ衛生組合の必要経費は両市で分担することになっている。算出方法は、人口割りと均等割りと処理量割りで、人口は調布市のほうが多いが、処理量は三鷹市のほうが多いため、近年は約52%を三鷹市が負担し、約48%を調布市が負担している状況である。

新年度、ふじみ衛生組合では、新ごみ処理施設の建設工事のために起債（借り入れ）などもするので、起債の返済経費も含めて、6億円余の金額が計上されている。これは、三鷹市だけでなく調布市も同様に計上している。

H 委員 : 前回、ふじみ衛生組合に電力を供給するに当たり、公園に鉄塔を建てるという話があったと思うがその後どうなったのか。

事務局 : ふじみ衛生組合へ高圧電力を引き込む鉄塔については、JAXAの敷地内に新しく建て替えるということになった。

C 委員 : 今、分担金の話の中に起債の話があったが、起債は年度毎に起債するのか、それとも建設費について一括で起債するのか。それに伴い、返済はどのような形になるのか。

事務局 : 起債というのは、ふじみ衛生組合の借入金であるが、一度に全額を借りるわけではなく、工事の進捗状況に合わせてその都度借りていく。今回の新ごみ処理施設では、22年度、23年度、24年度の3年間にわたって工事が行われるので、22年度の工事の出来高が上がったところで、その出来高に対してお金を借り、また翌年は、23年度分の出来高が上がったところで、その出来高に対してお金を借りる。そして、24年度は、最後の年度になるので残りを借りるというように、3回に分けて借りるようになる。

返済方法は、15年で返済するが、最初の3年間は利子だけを返済し、残りの12年間で元金と利子を返済していく。したがって、22年度に借りたものは、その利息を23年度から払い、23年度に借りたものは、その利息を24年度から払うという形になる。つまり、24年度は22年度に借りたものと23年度に借りたものの合計の利息を払うことになる。同様に25年度は、22年度、23年度、24年度に借りた分、つまり3年分の利息を払うことになる。26年度になると、22年度に借りた分の元金も返すようになるので返す額が急に多くなる。24年度の

元金を返す28年度からは3年分の元金を返すことになる。借りた時期が違うので、22年度に借りたものが先に返し終わり、23年度に借りたものが次に終わって、24年度に借りたものはその次に終わるという形になる。

C 委員 : 借入れ先はどこか。

事務局 : 借入れ先は国がほとんどで、残りは東京都から借りる予定である。

A 委員 : 委嘱状に、「任期は施設が竣工した日までとする」と書いてあるが、この「竣工した日」というのは、いつの時点を指しているのか。

事務局 : 竣工の定義であるが、竣工前には試運転を行い、いろいろな試験をして、すべて合格となれば、ふじみ衛生組合がJFEエンジニアリング株式会社から新ごみ処理施設の引き渡しを受ける。その引き渡しを受けた日が竣工した日とご理解いただければよいと思う。したがって、何かトラブルがあつて引き渡しが遅れてしまうと、皆さまの委員の任期もそれだけ延びることになる。

A 委員 : こちらで検討したスペックが完全に履行されたという確認があつた後に竣工されて、我々が任期満了ということによろしいか。

事務局 : そのとおりである。

F 委員 : 新ごみ処理施設を整備するに当たり国から助成金をもらうと思うが、助成金は返さなくてよいという理解によろしいか。

事務局 : 国からの助成金を交付金というが、国の交付金については返す必要はない。

### 1.3 議題

今後のスケジュール及び環境学習機能に係る検討の進め方について

#### 【事務局説明】

会 長 : 事務局から説明があつたように、今年の夏ぐらいまでに、ハードにかかわるところについては1つの提案を完結し、それ以降ソフトの面についても提案をしてほしいということだと思う。前期の検討会で2回ほど検討を行い、いろいろと意見も出されているが、今後、その整理の仕方についてご意見をいただければと思う。

進め方として、たたき台を事務局のほうから出してもらい議論する方法、あるいは、幾つかのグループに分かれて、テーマについていろいろ議論し、ブレインストーミング的にアイデアを出し合ったりして進めていくのかというあたりがまず進め方の大枠かと思う。その辺のご意見をいただけるとありがたい。

D 委員 : 建設見学会は、ぜひ一般市民の皆さんも対象にして、広報などで見学者を募集してほしい。

事務局 : 本日は市民検討会なので、市民検討会の皆さまにということでお話をさせていただいたが、事務局では、市民検討会の皆さま、地元協議会の皆さま、そして、一般の市民の皆さまの合同の見学会にしたいと考えている。

D 委員 : 今後の進め方だが、事務局案のたたき台というような形で進めてもらえばいいと思う。ただし、すべてお任せするのではなく、テーマはしっかりここで議論をして、そのテーマについて優先順位なりをつけて、そして、それに関連した資料を事務局から提示いただくという方法がよいのではないか。

私自身は、テーマの中にごみ処理技術というのがあるが、私は、これはふじみにとって重要なことだと思う。というのは、20年後にこの新ごみ処理施設も老朽化して、次の施設をつくらなければならないが、そのときに、従来どおりごみを燃やすのか、それとも、別の方法でやるのかというようなことが非常に重要になるのではないか。

今後の将来の技術動向を把握して、我々が20年後なりにどういう方式でごみを処理したらいいのか、そのために市民は何をすべきなのかというようなことを、今から勉強しておくということが必要ではないかと思ひ提案をさせていただく。

F 委員 : 私も事務局のたたき台にのったほうがいいと思うが、ワークショップのやり方というのは、いろいろな市民のアイデアが出てくる機会が多い。そこで、これを両方一緒にして、例えば初めにワークショップを行い、そこで出された意見と事務局のたたき台を比較し、どういうふうに相互性があるか、どこが違っているかを確認し、またそこを協議することによって、最高のものにしていくことができるのではないかと思うので、あえてワークショップ方式の採用を提案する。

B 委員 : 今後の検討の進め方ということで、1つは、必ずテーマがあるだろうと思う。その都度テーマを絞っていくと話しやすいという感じがする。

このごみ処理施設の基礎理解を深めるという啓発のテーマが1つあるし、もう1つは、環境問題、そういうことへの啓発。それからもう1つ加えるならば、体験学習とか、そういう側面がある。それに従って、それならば、掲示物や展示物がどうあればいいのかという議論がされてくるだろうと思う。そのようにテーマを絞っていくと、みんな連動した形で生まれてくるだろうと考えた次第である。そのほうがまた、結果的には見学者などにはわかりやすく、効果的なものとして完成していくような気がする。やはりテーマを絞って進めていったらどうかと感じているがいかがか。

I 委員 : ごみの減量もやはり考えていくべきだと思うので、その点の啓発もず

つと続け、見学に見えたときも、そういったことを子供さんやまた一般の方にもいろいろ考えていただくような方策を考えたほうが良いと思う。

そして、議論の手法は、事務局案のたたき台をある程度基礎にして、それで、皆さんで議論していけばいいのではないかなと思う。

E 委員 : I 委員の意見に賛成である。例えば、今、小学生は環境問題にもものすごく関心を持っている。そこで、我々だけのこの会で決めるのではなく、小学生の意見をある程度聞いて、そして、それをビデオ化するか、それとも、ちょっと見たときにわかるような展示にするか、そういったことも考えていく必要があると思う。私は、小学生を主としたそういう意見を聞いて、そして、我々がそれを補足していくとか補充していくとか、そういうことを考えたほうが良いと思う。

J 委員 : 他市の施設とか三鷹市の環境センターにどういう見学者が来るのか、小中学生が多いのか、一般の他の自治体からが多いのかとか、そういう資料があれば提供していただきたい。見学者によって、環境学習機能はどのようなものをつくったらいいかというものも決まってくると思う。

会 長 : 事務局のたたき台を出してもらいながらここで検討していくという方式と、ワークショップ的なものも入れて併用していったらいいのではないかなという意見が出たがいかがか。

本来はどちらもやるべきだと思うが、スケジュールを考えると、この場でワークショップを何回かやるとすれば、ごく限られたテーマで試行的に幾つかのテーマをやってみるということになると思う。

副 会 長 : 効率的にテーマについて検討していくとしたら、いろいろな既存の資料を、今、入手できる範囲内である程度集めて、その資料を見て検討してはいかかが。

会 長 : 資料はできるだけ多く出してもらいたいと思う。ただ、スペースから考えて、それをこの委員会の中で絞っていかなければならない。

絞らなければならないが、あまり絞り過ぎてもまた出てこない。新ごみ処理施設の中にどれぐらい何を入れるかというのを、資料を出してもらった上で、取捨選択、あるいは優先順位をつけるということになるのではないかな。それをもとに、事務局でたたき台をつくってもらい、できればワークショップ的なこともやれればと思うが、当面は今、まずどういったテーマ、問題、対象があるのかということをござつと出してもらい、そこで皆さんのご意見をいただきながら、これはというものをとりあえずピックアップしていかなければならないのではないかな。その上で、幾つかのところ絞っていくということになるのかなと思う。

同時に、7月いっぱいまでにハードの検討をしなければならない。ハードについては、以前の検討会でもいろいろな意見をいただいているの

で、まずは今まで出てきた意見を整理してらった上で、もう1回検討してもらおうということが必要だと思う。

そして、まだ余地があるというところはもう1回提案しながら、同時に、啓発項目を視野に入れて、ここに広げたならこういうこともやりたいとかいう話になってくるような気がする。

啓発項目については、先ほど小学生に聞くという意見もあった。それは大事な話なので、そういう目線を入れる方法を事務局のほうで考えてもらい、あわせて整理していきたいと思う。

B 委員 : 学校で行っている環境学習に関する情報の収集については、あらゆる小学生ということではなく抽出でいいと思う。まず、学校でどういう取り組みをさせているのか、およそ何時間ぐらい、何学年なのか、そのあたりを調査してみるのがよいと感じた。

事務局 : 三鷹市、調布市とも、指導室というところがありカリキュラムの管理を行っているので、環境学習の部分についてどのようなことをやっているか資料を集めさせていただきたい。

会 長 : 既に我々のほうに提示された21回の検討会資料の中に、各フロアのたたき台的なものも載っている。こういうものもひとつ参考にしながら、ほかにこういうものが必要だとか考えていかなければならない。

私自身は、やはりこのふじみの施設にふさわしいというか、特徴あるものにしていかなければいけないと思う。それにはテーマを絞り込むことが必要になっていくと思う。検討するときは網羅的に全部出しながら、この施設にふさわしいものに絞るとか優先順位をつけなければならないが、その面では、先ほどD委員から意見が出たように、ごみ処理技術の未来志向というのはすごく大事だと思う。

私はスペースがあれば、資料館みたいなもの、資料や図書が置いてあってもいいと思っているが、それも全体のスペースと配置の中でどうなるか。

最初のたたき台になる網羅的な内容を、小学校のことやいろいろなものを含めて次回に出してもらい、それを見ながらスペースのことを考え、ハードをもう1回整理していくというあたりになるかと思う。

E 委員 : 全国の教育委員会の会長の会議があり、地域と学校を結ぶ、そういう基本的なことが話し合われたと聞いているので、今回、我々だけではなく、やはり地域と密着した検討というか、そういうものをやっていたほうがいいと思う。

会 長 : PTAとか学校関係の人をオブザーバー的に、あるいは参考的に呼ぶことも可能だと思うので、事務局のほうで検討してもらい、小学校の環境教育の知識、情報が共有できればいいかなと思う。

1 4 確認事項

【次回は、4月28日（木）の午後7時に開催】

1 5 閉会

午後8時45分散会